

6 FAボックス

水路

NETIS登録番号:QS-110006-A

FAボックスの特長

FAボックスは、3分割されたプレキャスト部材と現場打ちコンクリートを併用した、大断面ボックスを構築する工法です。頂版、側壁を分割構造(セグメント化)することで、「斜角」への対応が容易となります。

コスト縮減

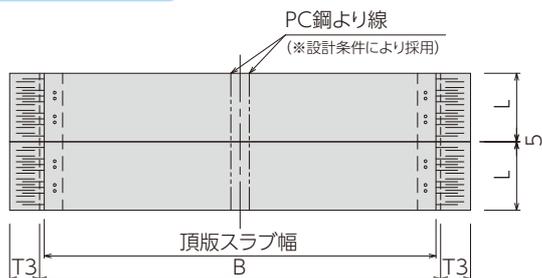
プレキャスト部材をスラブ構造とし、底版を現場打ちとしたことで経済性に優れた大型ボックスです。

工期短縮

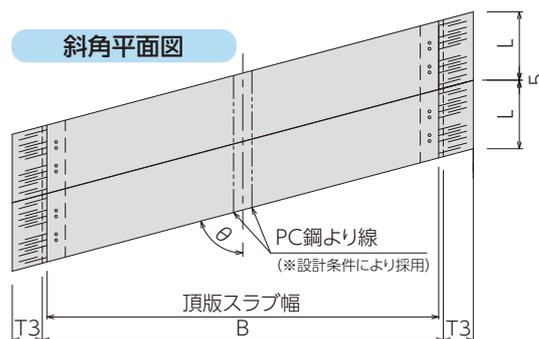
ループ継ぎ手を用いてプレキャスト部材を一体化するため施工が容易で工期短縮が図れます。

構造概要

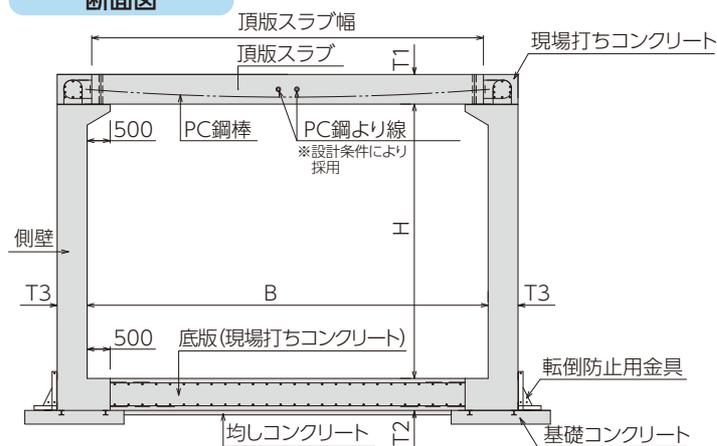
標準平面図



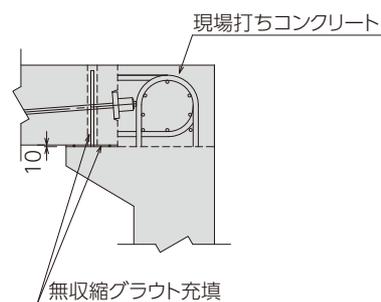
斜角平面図



断面図



隅角部構造



設計条件

活荷重	T-25
標準土被り	0~1.0m(1m以上は別途設計)
縦断勾配	10%程度
曲率半径	曲線配置対応可
斜角	60° ≤ θ ≤ 90° (θは5°ピッチが標準です)

カルバート寸法

内空幅B (mm)	5000 ~ 12000
内空高H (mm)	2000 ~ 7000
頂版厚T1 (mm)	300 ~ 750
底版厚T2 (mm)	300 ~ 1000
側壁厚T3 (mm)	300 ~ 750

施工手順

1 基礎



施工性を高めるためレール基礎を標準とします。

2 側壁施工



レール基礎上に設置するため
正確で迅速な据付ができます。

3 頂版スラブ架設



通常の玉掛ワイヤー4点吊りにて架設します。

4 頂版隅角部の配筋状況



頂版隅角部の鉄筋状況
(ループ鉄筋、ループ内通し鉄筋)

5 底版部の配筋



底版部の鉄筋を組立てます。

6 現場打ちコンクリート打設～完了



頂版隅角部及び底版部にコンクリートを打設し完了。

実物大公開載荷試験

実物大供試体を作成し、施工性や構造性能の検証試験を行い、想定どおりの施工が可能であること、一体型と同等の性能を有していること等を確認しました。



基礎実験

規格値までほぼ同一の挙動を示し、接合隅角部が一体打ちのときと同等の性能を発揮しました。



施工例

道路



河川

